

葉柄専用サツマイモ「エレガントサマー」の葉柄生産に適した施肥と収穫方法					
[要約] サツマイモの葉柄生産において、施肥量は窒素20kg/10aが適し、 <u>緩効性被覆肥料</u> や <u>有機質肥料</u> の利用により追肥を省略することができる。また、収量性や作業時間および作業強度から、「全刈り」や「葉柄収穫」が <u>収穫方法</u> として適する。					
担当部署	八女分場・中山間地作物チーム			連絡先	0943-42-0292
対象作目	野菜	専門項目	栽培	成果分類	新技術

#### [背景・ねらい]

食の多様化が進行している現在、中山間地域の農業活性化のためには、主な担い手である高齢者や女性でも取り組みが容易で、経費をあまり要しない品目の選定とその栽培技術の確立が望まれている。サツマイモの葉柄（イモヅル）は、近年葉柄専用品種が育成されたことから剥皮の手間もかからなくなり、また、食物繊維が多いなど機能性食品としても今後の消費拡大が期待できる品目と考えられる。しかし、葉柄生産に適した肥培管理や収穫方法などは明らかにされていない。

そこで、葉柄専用品種「エレガントサマー」を用いた葉柄安定生産技術を確立する。

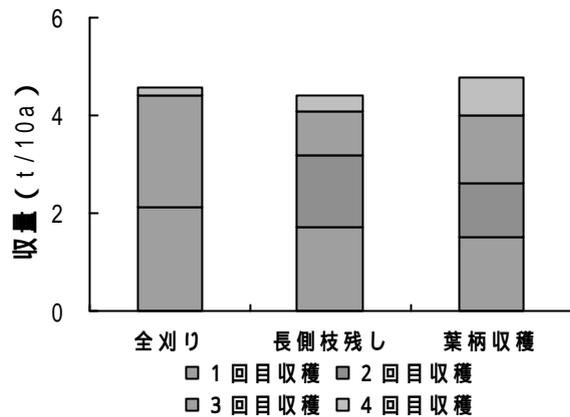
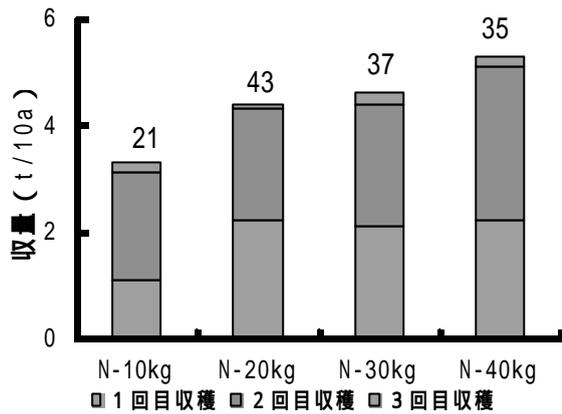
#### [成果の内容・特徴]

1. 施肥量が多いほど多収となるが、窒素を20kg施用することにより、商品価値が高い長さ30cm以上の葉柄の発生割合は最も高くなり、30kg施用と同等の総収量が得られる（図1）。
2. 緩効性被覆肥料（化学肥料）のみの施用や、施用窒素量の50%を有機質肥料と組み合わせることにより、追肥を省略でき、慣行（追肥が必要）と同等の収量が得られる（図2）。
3. 有望な収穫方法の特徴は次の通りである（図3、表1）。
  - 「全刈り」：収穫間隔は空くが、作業時間は短く、作業強度（圃場における収穫作業の姿勢など）も軽いので、広い面積で栽培する人や足腰の弱い人などに適する。
  - 「葉柄収穫」：作業時間は長く、作業強度も重いですが、収穫回数が増え、収穫期ごとの収量を均等化できるので、栽培面積が狭い場合や安定生産したい場合に適する。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 病害虫の発生などから夏季の冷涼な中山間地域で活用できる。また、労力および経費をあまり必要としないことから高齢者や兼業農家の女性にも適する。
2. 「主要野菜の栽培技術指針」に登載し、葉柄専用サツマイモの栽培技術として活用できる。
3. 降雨で肥料が溶脱し難いように定植床は広めにマルチングし、梅雨明け後つるが焼けないように株もと以外のマルチは除去する。

[ 具体的データ ]



注) 1. 定植期: 5月28日  
 2. 栽植密度: 3300株/10a  
 3. 施肥: 基肥 (CDU化成S555) + 追肥 (NK化成2号)  
 4. 収穫: 1回目 8月6日、2回目 10月1日、3回目 11月1日  
 5. 棒グラフ上の数値は、長さ30cm以上の葉柄の発生割合 (%)

注) 1. 収穫の方法  
 全刈り: 1回目の収穫は繁茂時に主枝、側枝全てを株元で刈り込んで切り戻し、その後再び茎葉が繁茂した時点で収穫する。  
 長側枝残し: 1回目の収穫は繁茂時に、長さ1m前後の側枝1~2本だけを残り、他の主枝と側枝は株元から切り戻す。その後同様に収穫する。  
 葉柄収穫: 長さ20cm以上の葉柄が一定量揃った段階を収穫時の目安と植え付け1ヶ月後から定期的に、20cm以上の長さの葉柄のみを継続的に収穫する。  
 2. 施肥量、定植期および栽植密度は図1と同じ  
 3. 収穫: 1回目 8月6日、2回目 9月5日、3回目 10月1日、4回目 11月1日

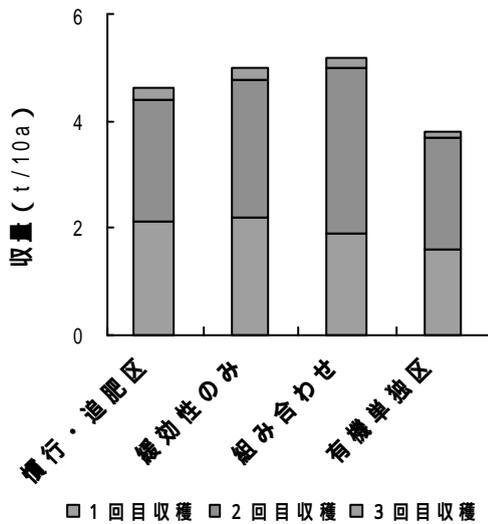


表1 収穫方法と作業時間および作業強度 (14年)

収穫方法	作業時間 (時/a)		作業強度
	収穫	調製	
全刈り	8	134	弱
長側枝残し	15	182	中
葉柄収穫	124	88	強

注) 1. 施肥法 (肥料の種類と窒素施用量の割合)  
 慣行・追肥区: 基肥 CDU化成S555 (85%) + 追肥 NK化成2号 (15%)  
 追肥は3回に分けて施用  
 緩効性のみ: 基肥のみLPSS100 (15%) + LP70 (65%) + LP180 (20%)  
 組み合わせ: 基肥のみLPSS100 (15%) + LP180 (35%) + 福岡有機1号 (50%)  
 有機単独区: 基肥のみ福岡有機1号 (100%)  
 福岡有機1号は有機質100% (植物油かす類など)  
 2. 施肥量は窒素成分で30kg/10a  
 3. 定植期および栽植密度は図1と同じ

注) 1. 調製は、側枝からの葉の取り外しと葉身の除去を含む  
 2. 「長側枝残し」と「葉柄収穫」は、収穫作業に収穫後の主枝や側枝の再配置の時間を含む

[ その他 ]  
 研究課題名: 葉柄専用サツマイモの栽培技術確立  
 研究区: 経常  
 研究期間: 平成14年度 (平成12~14年)  
 研究担当者: 柴戸靖志、林三徳、月時和隆  
 発表論文等: 平成14年度 八女分場中山間地作物研究室試験成績概要書